

週間展望・回顧(ポンド、加ドル)

April 30, 2021

## ポンド、スコットランド議会選に注目

- ◆ポンド、ワクチン普及やロックダウン緩和が引き続き支えに
- ◆ポンド、BOE 会合とスコットランド議会選に注目
- ◆加ドル、BOC のハト派姿勢の後退や原油高が支え

### 予想レンジ

ポンド円 148.50-154.50 円

加ドル円 86.50-90.50 円

### 5月3日週の展望

英国内でのコロナワクチン普及や、ロックダウン緩和に伴う景気回復への期待を背景に、ポンドは底堅い動きとなっている。来週は、イングランド銀行（BOE）の政策会合とスコットランド議会選に注目。

英国ではワクチン接種が順調に進んでおり、7月末まで全成人が接種を受けられる見通しだ。すでに全国民の約半分がワクチンの1回目の接種を終え、先進国のトップを走っている。ワクチン接種が進むに連れて、コロナの感染や死亡が減りつつある。英政府は5月17日に海外旅行を解禁し、6月21日には社会的制限のほとんどを解除する予定する予定で、早い段階での経済の正常化を目指しており、英景気回復の期待感が引き続きポンドの支えとなる。

来週のBOE政策会合では金融政策の据え置きが見込まれる。前回会合では引き続き「先行きは極めて不透明」と強調し、物価目標の持続的な達成や経済全体の余剰生産能力が解消されるまで金融引き締めは行わないと強調。ワクチン接種、ロックダウン緩和が順調に進んでおり、今回の会合では景気回復に自信を強める可能性がある。欧州議会では28日、欧州連合（EU）と英国の通商協定が圧倒的な多数で可決され、英国のEU離脱プロセスが事実上完了した。通商協定が決裂する危険が取り除かれたが、今後も相違が生じた際には協定の枠組みにおいて対応する必要がある。

5月6日にスコットランドの議会選が行われる。英国からの独立を目指すスコットランド民族党（SNP）など「独立派」が過半数を確保するかが焦点となっており、英国の分裂を阻止したいジョンソン政権にとって大きな政治イベントである。独立派が圧勝すれば独立を問う住民投票実施への圧力が高まる。独立派は英国から「離脱」し、EUへ再加盟することを目標にしている。現在、与党のSNPは61議席と過半数には届いていない。

加ドルは堅調地合いを維持するか。カナダ中銀（BOC）がハト派姿勢を緩めたことや、原油相場の堅調な動きが加ドルの支えとなる。BOCは4月の会合で、国債の買い入れ目標を引き下げるとともに経済見通しを大幅に上方修正し、来年にも利上げに踏み切る可能性を示唆した。マックレムBOC総裁はコロナ状況が最大の不透明要因と強調しながらも、ワクチン接種の進展に伴い今年下半期は消費が主導する形で強い成長を遂げると予想した。石油輸出国機構（OPEC）加盟・非加盟国で構成する「OPECプラス」会合で減産の縮小を慎重に進めるとの姿勢が強調され、原油相場が堅調な動きとなっており、加ドルの支援材料となっている。来週は4月加雇用データが3月に続いて良好な結果になるかにも注目。

### 4月26日週の回顧

英景気回復期待を支えにポンドドルは1.39ドル後半まで上昇するなど、底堅い動き。原油高も支えにドル/加ドルは1.22加ドル後半まで2018年2月以来の加ドル高が進んだ。バイデン米政権の政策期待も支えにリスク選好の円売りが優勢となり、ポンド円は152円半ば、加ドル円は88円後半まで強含んだ。4月加小売売上高は前月比で予想比上振れの+4.8%となった。（了）